

方城中
サッカー

和を以て技を制する 筑豊大会連覇した鉄壁の一枚岩

サッカー部イレブン

SOCCER



県予選で失点ゼロ。田川地区大会、筑豊大会の両大会を通して、方城中ゴールのネットは、一度も揺れることはなかった。香春中を1対0で下し、昨年に続く連覇というプレッシャーをはねのけ、県大会の切符を手にした。「全員で守り1点をとる」が方城中サッカー部のチームカラー。顧問・宮田理先生の「和を以て技を制する」という理念のもと、一人ひとりがチームのためにひた走る全員サッカーを身につけた。夏の大会の目標は県大会ベスト4、自信があった。その源はどこにも負けない練習量にある。早朝から1時間弱、放課後はボールが見えなくなるまで汗を流す。27人の部員が一丸となってこの夏に挑んだ。しかし、7月31日に本城陸上競技場で行われた1回戦、宗像市の自由ヶ丘中に4対0で惨敗、県の壁は厚かった。

「前回、1回戦を突破した先輩から『おれたちを越えろ』と託されました。結果は残念ですが悔いは残っていません」とキャプテンの朝部翔太君（3年）。後輩たちは、筑豊大会3連覇という目標を自覚した面持ちで、その言葉を後ろから聞いていた。



「優勝旗を手に白い面をのぞかせる部員たち」

金田中
放送

己を見つめ 地道な努力

BROADCAST

荒木 龍太郎くん



筑豊大会アナウンス部門で入賞し、7月24日の県大会に出場した荒木龍太郎君（金田中3年）。大会に向け、発声練習、早口言葉、原稿読みを続けた。録音し、悪い所を自分で見付けては克服。仰向けで腹式呼吸を体得し、鼻濁音の発声もスムーズになった。「県大会では男性が少なく、とても緊張した」という荒木君。夢は通訳、的確に伝えることの喜びを知った夏だった。



「学校では放送部でアナウンスする荒木龍太郎君」

方城中
剣道

技も剣道も 正面から

KENDO

近藤 巧馬くん



昨年1回戦で負けた筑豊大会で2位を勝ち取った近藤巧馬君（方城中3年）。得意技の「正面打の飛び込み面」は指導する石谷良喜先生も「中学生では一流」と太鼓判を押す。筑豊大会では9割の技で審判の旗をあげた。「県大会は残念な結果でしたが、進学しても剣道に打ち込みます」と意気込みを語った近藤君。小3から始めた剣の道を得意技同様、正面から進んでいく。



「一技に磨きをかける近藤巧馬君。剣道で進学を予定」

金田中
相撲

本番勝負で 県大会三位

SUMO

山本 翔也くん



筑豊大会の準決勝から手応えを感じた。8月2日の県相撲大会で見事3位に輝いた山本翔也君（金田中2年）。本来は柔道選手だが筑豊大会敗退の悔しさをバネに相撲に挑戦した。本番勝負でコツをつかみ、速さと強じんな投げで勝ち進んだ。「立ち合いの駆け引きや集中力を身につけ、来年は自分を追い込んで出場したい」と山本君。一瞬で決まる相撲に、静かな闘志をみせた。



「当面は柔道と相撲の双方を鍛錬する山本翔也君」



この夏、燃えた。福智の原石。

ひたむきに努力すること。最後は自分との戦いであること。勝つことがすべてではないこと。

この夏、福智の中学生が予選などで選ばれ、もう一つ大きな舞台に立ちました。

全国でもハイレベルといわれる県大会に挑戦した 方城中、金田中。

全国規模の取り組みの場で活動成果を発表した赤池中。

ここで、輝いたそれぞれの姿を紹介します。



赤池中
発表

水環境フェア 2006 in 松江 九州で唯一の発表校に

ANNOUNCEMENT 2年生代表の6人



「大舞台である松江市の川について発表した6人と山中先生」

「多くの人に川の大切さを訴えたい」。発表する6人は高根県松江市に向かう前、張り切った口調で目を輝かせた。赤池中の2年生を代表する6人が、8月7日から開かれた「水環境フェア2006 in 松江」（国土交通省など主催）で、彦山川について学習した成果を発表。九州の小中学校では唯一の発表校に選ばれた。2年生112人は、1年生のときに総合的な学習の時間で「私たちの彦山川を守ろう」をテーマに、学校近くの河川敷でゴミの量や種類を調査、さらに流域9地点で水質を測定し、下流にかけて悪化する水質データや意見を壁新聞にまとめた。この活動を国土交通省が評価し、川の保全活動をする全国約30の団体や学校が事例発表するフェアへの参加を推薦。6人はパソコンを使って2日目の8日に活動を発表した。はじめは緊張したが、会場の雰囲気を読み込むように発表できた。自己評価は80点。大きな拍手を得、納得いく内容だった。

方城中
陸上

気持ちを強く 次のステップに向かって

FIELD & TRACK 赤金 智明くん・芦馬 彩香さん



スピードを殺さぬよう、高さを抑えたり、ぎりの低姿勢で91cmのハードルを越えていく。赤金智明君（方城中3年）、陸上は中学に入ってから始めた。得意のハードルで去年は筑豊大会3位、今年は4位。県大会の舞台では、緊張で結果が出せなかった。「気合いが足りなかったです」と悔しい気持ちを振り返る赤金君。当面は「気持ちを強く持つように」が仮題だ。現在は意識を10月の県彦田川地区大会に切り替え、黙々と調整を進めている。

筑豊大会女子砲丸投で3位に入賞した芦馬彩香さん（方城中3年）。2年生のはじめに入学し、いきなり筑豊大会で4位、新人の県大会に出場した。当初は百m走と砲丸の二種を練習したが、夏の県大会に向けて砲丸だけに専念した。県大会では唯一、オリジナルのツーステップの投げ方で挑んだ。しかし体格の違いにも圧倒され、自己ベストの9m45を越えることはできなかった。「進学しても続けたいです。次はやり投に挑戦したい」と笑顔を見せた芦馬さん。次のステップに向けて、大会が終わっても毎日40回の腕立てをいまだ欠かさない。



「2名の砲丸を独自のフォームで投げる芦馬彩香さん」



「疾走のスピードをそのままにハードルを越える赤金智明君」